

誤解・勘違いから始める金融の知識⁶

円安で得？ 数値が大きくなると円安？

根岸公認会計士事務所 所長

証券アナリスト検定会員・公認会計士・税理士 根岸 康夫

今月の誤解

斉木さんは退職後の資産運用で外貨建資産の活用を検討しています。しかし、何回説明を受けてもどうもしっくりこない。外貨建資産を購入すると「円安で得」であり、「数値が大きくなると円安」というのに馴染めないのです。

背景となる理論

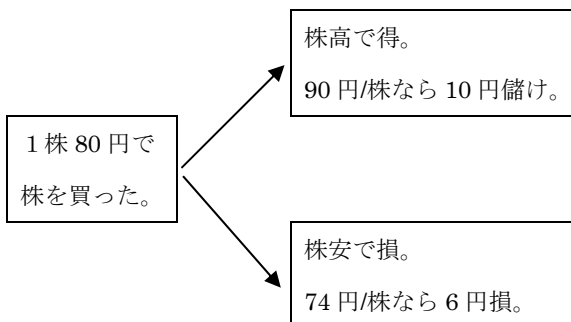
理論などありません。それにこれは斉木さんの誤解ではありません。金融業界に限らず日本に蔓延する「誤った慣習」です。しかも、誤った慣習が原因で外貨建資産運用への心理的な障壁になっているという悲しい現実があります。

F Pここに注目

F P資格取得のための学習を通して、みなさんも様々な分野・テーマで混乱したり、勘違いしたりしていたはずです。その経験は実務にとって貴重なものです。なぜならあなたが混乱したり勘違いしたことは、きっとお客様も同様に混乱したり勘違いするだろうからです。F Pにとって大事なことは「正しい知識を持っていること」だけではありません。正しい知識があることは当然として「お客様が陥りがちな誤解・勘違いに敏感であること」だと筆者は考えます。慣習だけが正しい説明とは限りません。素朴な疑問や勘違いを契機に、説明方法を見直すことも必要でしょう。

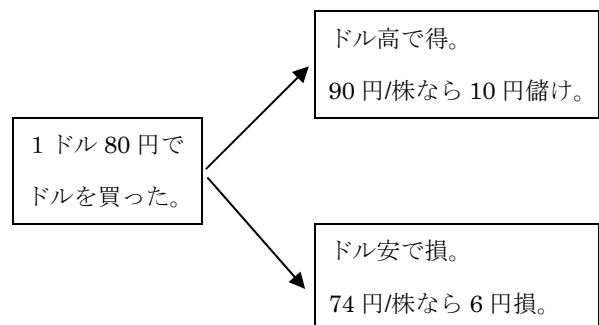
外貨も株も同じ

まず株式投資を考えましょう。株式を1株80円がかつたら、株高で得、株安で損となります。また、株高というのは1株80円という数値が大きくなること、例えば90円になれば10円儲けです。逆に株安とは数値が小さくなること、例えば1株74円になれば6円損です。



これを「逆の逆でややこしい」とか、「何回聞いても納得いかない」という感想を聞いたことがありません。

外貨も同じです。「株」を「ドル」に置き換えるだけです。



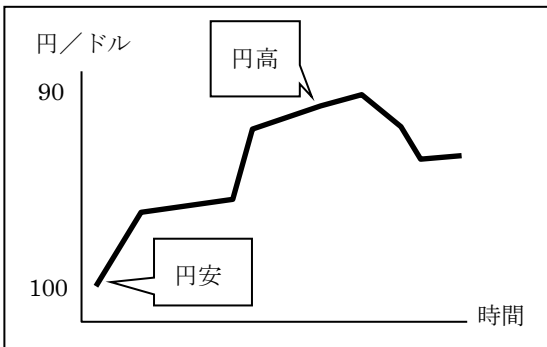
ドルを買ったのだから、ドル高で得、ドル安で損。ドル高は数値が大きくなること、ドル安は数値が小さくなること。どこにも「逆の逆」はありません。

「円高・円安」が原因

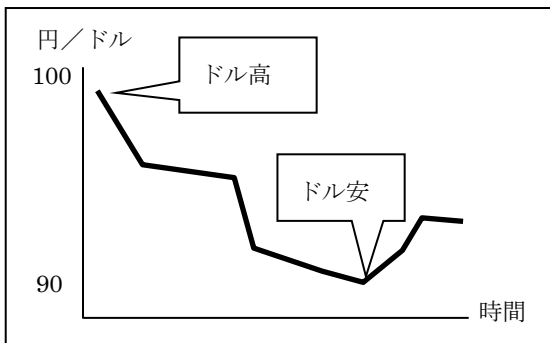
では、何故「逆の逆」という迷信がはびこるのでしょうか。それは「ドル高」というべきと

ころを「円安」、「ドル安」というべきところを「円高」と言い直すことが原因です。

ドル建て定期預金を購入すると、「円安になると儲け」、ただし「円安とは数値が小さくなること」という説明が一般的です。「安で儲け」、「大きくなると安い」、混乱するはずです。ドル価格の変動を示すグラフも円高・円安を中心とした「気持ちの悪い」グラフが主流です。



為替レートではなくドルの価格だと考えてグラフを描いた方が自然です。



そもそも「為替レート 80 円/ドル」で円高・円安と表現するのは誤りです。なぜなら「80 円/ドル」とは「1 ドル＝80 円」即ちドルの価格を意味しています。ドルの価格を表示しておきながら円の価格のごとく名称するのは不合理、間違いです。「円の価格」を表示したければ「1 円＝1/80 ドル」とすべきです。

ドルの売買も八百屋の大根と同じ

為替レートを特別視せず、株や普通の商品と同じだと理解すれば、TTS、TTB も迷うはずはありません。

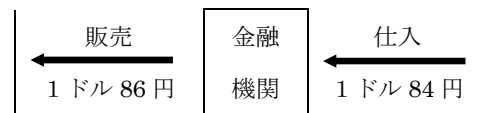
八百屋さんが大根を仕入れて販売することを

イメージしましょう。大根 1 本 84 円で仕入れたら、売値は 84 円よりも高い価格、例えば 1 本 86 円に設定します。これをもって「八百屋は悪どい」と非難する人はいないでしょう。



ドルも大根のような通常の商品と同じです。

1 ドル 84 円で買い取り（仕入れ）、1 ドル 86 円で売ります。



TTB が買取価格、TTS が販売価格です。これを仲値 TTM とスプレッド（一般的には±1 円）で表示します。この場合、TTM 1 ドル 85 円、買取価格 TTB が 85 円－1 円＝84 円、販売価格 TTS が 85 円＋1 円＝86 円となります。

円高不況ではなくドル安不況

「どうして円高になると不況になるのか」と改めて聞かれたら、みなさんはなんて説明しますか。著者なら「株価が低迷したら不景気ですよね。不動産価格が低迷したら不景気ですよね。円高じゃなくてドル安なんです。円高不況じゃなくてドル安不況です。」と答えることにしています。トヨタが当期利益 1 兆円を達成した時期、北米での販売が好調でドル紙幣を大量に保有、その時のドルの価格は 1 ドル 130 円台でした。それが 2012 年は 70 円台で推移し、年末には 80 円台を回復したものの歴史的低水準でした。苦境が伺われます。

歴史をふりかえると第 2 次大戦後(1949 年以降) から 1971 年のドル・ショックまで固定相場制で 1 ドル＝360 円でした。変動相場制に移行して約 40 年でドル価格は 1/4 未満まで下落したのです。日本経済は長期的なドル安と戦ってきたと言えます。